

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（シラバス）

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	歯科衛生科	学 年	1年		
科目名	解剖学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	笠原江利子	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	人体を構成する器官を形態、構造、機能及び器官相互の位置関係について学び、説明できる。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 器官の系統的な分類を理解する。 ・ 人体の外形と構成を理解する。 ・ 器官の形態、構造、機能機関相互の位置関係を理解する。 				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	総論：解剖学の種類、人体の構成、用語		11	4. 循環(2)：静脈系・リンパ系 胎児の循環	
2	1. 骨格系（1）：構造、機能		12	5. 神経系（1）：概要・構成	
3	1. 骨格系（2）：体幹骨（胸郭、呼吸） 上肋骨（鎖骨と頭蓋骨の関係等）		13	5. 神経系（2）：中枢神経系	
4	1. 骨格系（3）：下肢骨（寛骨と腸骨 恥骨、坐骨の関係、骨盤の性差）		14	5. 神経系（3）：末梢神経系	
5	2. 筋と運動（1）：構造と機能 筋の形状と分類		15	6. 呼吸器系：上気道・下気道～肺	
6	2. 筋と運動（2）：頭部、頸部、背部		16	7. 感覚（1）：一般的性質 皮膚・粘膜	
7	2. 筋と運動（3）：胸部、腹部、上肢 下肢		17	7. 感覚（2）：眼・耳	
8	3. 消化・吸収（1）：消化管の構造 口腔～食道、嚥下		18	8. 泌尿器系	
9	3. 消化・吸収（2）：胃～大腸、肛門 肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜後器官		19	9. 生殖器系	
10	4. 循環（1）：血管系の概要（構造、 血球、組織）・心臓・動脈		20	10. 内分泌系	

<p>講義方法</p> <p>教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。</p>
<p>講義で使用する機器・教材</p> <p>プロジェクター（P C 連動）、配布プリント、骨格標本模型</p>
<p>履修上の注意事項</p> <p>解剖学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。</p> <p>授業中の私語、携帯電話の使用、途中退席は厳禁とする。</p>
<p>成績評価方法</p> <p>試験評価 80% 授業態度 20%</p>
<p>教科書</p> <p>最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学</p>
<p>参考書</p> <p>プロメテウス解剖学アトラス （医学書院）</p> <p>人体の構造と機能（全10巻縮刷版）（日本医事新報社）</p>
<p>予習復習のアドバイス</p> <p>教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。</p>

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	歯科衛生科	学 年	1年		
科目名	組織・発生学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	10
講師名	笠原江利子	単位時間数	15	単位数	1
講義目標	一般目標				
	人体を構成する最小の基本単位である細胞の構造と、その集団が一定の配列や形態をとってできた組織の構造と機能について学び、説明できる。 さらに人体と口腔の発生過程についても学び、それを説明できる。				
	到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・細胞と細胞内小器官の構造と機能を理解する。 ・組織の種類、構造と機能を理解する。 ・人体の正常発生過程と先天異常を理解する。 					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	歯の組織と名称 ※「口腔組織学」の内容	6	組織④神経組織
2	細胞：細胞の構造、細胞の一生	7	発生①染色体と減数分裂,精子と卵子, 受精と着床
3	組織①種類と構成、上皮組織、支持組織、結合組織	8	発生②胚葉の形成
4	組織②骨組織	9	発生③胎児の成長と発育
5	組織③筋組織	10	顔面と口腔の発生① ※「口腔組織学」の内容

講義方法 教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。
講義で使用する機器・教材 プロジェクター（P C 連動）、配布プリント、骨格標本模型
履修上の注意事項 解剖学・組織学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。 授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。
成績評価方法 試験評価 80% 授業態度 20%
教科書 最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能0 解剖学・組織発生学・生理学
参考書 カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで 井上貴央監訳（西村書店）
予習復習のアドバイス 教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	歯科衛生科	学 年	1年		
科目名	歯の解剖学（スケッチ含む）	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	笠原江利子、（非常勤講師）	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	永久歯および乳歯の形態、表面構造、機能と歯種の鑑別について学び、説明できることを目的とする。				
	到達目標				
	①歯の名称、表示法、用語を理解し説明できる。 ②永久歯と乳歯の形態、表面構造と機能を理解し説明できる。 ③歯種の鑑別を理解し、説明できる。 ④正常な歯列と咬合を理解し、説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	歯の概論①	11	永久歯⑦（大白歯②）
2	歯の概論②	12	永久歯⑧（大白歯③）
3	永久歯①（特徴、前歯①）	13	乳歯①（乳前歯①）
4	永久歯②（前歯②）	14	乳歯②（乳前歯②）
5	永久歯③（前歯③）	15	乳歯③（乳臼歯）
6	歯型彫刻①（上顎中切歯①） (非常勤講師)	16	歯の配列と咬合関係
7	歯型彫刻②（上顎中切歯②） (非常勤講師)	17	異常歯
8	永久歯④（小白歯①）	18	歯型彫刻③（上顎第一大臼歯①） (非常勤講師)
9	永久歯⑤（小白歯②）	19	歯型彫刻④（上顎第一大臼歯②） (非常勤講師)
10	永久歯⑥（大白歯①）	20	歯型彫刻⑤（上顎第一大臼歯③） (非常勤講師)

講義方法

教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、顎模型を用いて講義を行う。

石膏棒を削り、上顎中切歯および第一大臼歯を作成する。

講義で使用する機器・教材

プロジェクター（PC連動）、配布プリント、歯牙模型

歯型彫刻時に使うものは、追って連絡する。

履修上の注意事項

歯の形態を知ることは、歯の清掃指導、歯頸部のスケーリング等に関して、非常に重要である。

歯の解剖学の学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。

成績評価方法

試験点数を70%。平常点10%。

歯型彫刻実習の配点は、20%とする。（出席点と製作物の提出点を基礎点とする）

教科書

最新歯科衛生士教本 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔組織学」

参考書

最新歯型彫刻 理論と実際 第2版 （医歯薬出版）

基礎から学ぶ 歯の解剖 （医歯薬出版）

予習復習のアドバイス

覚えるべき専門用語が多いので、必ず事前に教科書を熟読し、授業後にも授業内容をしっかりと復習すること。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	歯科衛生科	学 年	1年		
科目名	口腔解剖学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	10
講師名	笠原江利子	単位時間数	15	単位数	1
講義目標	一般目標				
	口腔とは消化管の始まりの部分で、食物摂取、咀嚼、嚥下などの一連の役割がある。それらの機能を営むために、歯、歯周歯、歯周組織、舌、唾液腺を備えている。本科目では、歯・口腔およびその周囲組織の構造・機能に関する理解を深める。口腔解剖学の概要を学び、口腔の解剖について理解し、口腔を解剖学的側面から説明できる。				
	到達目標				
	歯・口腔とその周囲組織の構造・機能に関する理解を深め、説明できる様にする。				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	頭頸部の筋と作用①		6	口腔付近に分布する神経系① 脳神経（1）	
2	頭頸部の筋と作用②		7	口腔付近に分布する神経系② 脳神経（2）	
3	顎関節		8	口腔付近に分布する神経系③ 自律神経系	
4	口腔付近に分布する脈管系① 動脈系		9	まとめ試験	
5	口腔付近に分布する脈管系② 静脈系・リンパ系		10	試験解説	
講義方法 教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。					
講義で使用する機器・教材 プロジェクター（PC連動）、配布プリント、骨格標本模型					
履修上の注意事項 解剖学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。 授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。					
成績評価方法 試験評価 70% 授業態度 30%					
教科書 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学					
参考書 プロメテウス解剖学アトラス 口腔・頭頸部（医学書院）					
予習復習のアドバイス 教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。					

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	歯科衛生科	学 年	1年		
科目名	口腔組織学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	10
講師名	笠原江利子	単位時間数	15	単位数	1
講義目標	一般目標				
	口腔とは消化管の始まりの部分で、食物摂取、咀嚼、嚥下などの一連の役割がある。それらの機能を営むために、歯、歯周歯、歯周組織、舌、唾液腺を備えている。本科目では、歯・口腔およびその周囲組織の構造・機能に関する理解を深める。口腔組織発生学の概要を学び、歯と歯周組織の発生について理解し、それを説明できる。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯と歯周組織の発生過程を理解する。 ・ 歯と歯周組織の構造と機能を理解する。 				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	顔面と口腔の発生②		6	まとめ	
2	歯と歯周組織の発生		7	口腔の構成①（※口腔解剖学） 口唇・頬・歯肉・舌	
3	歯及び歯周組織の構造と機能① エナメル質		8	口腔の構成② 口蓋・咽頭（※口腔解剖学）	
4	歯及び歯周組織の構造と機能② 象牙質・セメント質		9	頭蓋を構成する骨① （※口腔解剖学）	
5	歯及び歯周組織の構造と機能③ 歯槽骨・歯肉・歯根膜		10	頭蓋を構成する骨② （※口腔解剖学）	
講義方法 教科書を中心に、スライド（パワーポイント）や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。					
講義で使用する機器・教材 プロジェクター（PC連動）、配布プリント、骨格標本模型					
履修上の注意事項 解剖学・組織学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。 授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。					
成績評価方法 試験評価80% 授業態度20%					
教科書 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学					
予習復習のアドバイス 教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。					

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	歯科衛生科	学 年	1年		
科目名	歯科衛生士概論	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	市川明子	単位時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標				
	歯科衛生士としての業務や役割について学び、知識、技術を習得する態度および心構えについて理解すること。				
	到達目標				
	歯科衛生士という職業を理解し医療人としての心構えについて理解できる。				
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	歯科医療とは・歯科衛生士とは健康の概念		11	医療事故の防止と対策	
2	1・2年製相互実習		12	臨地実習前指導	
3	1・2年製相互実習		13	臨地実習前指導	
4	歯科衛生士の業務と歴史		14	臨地実習前指導	
5	歯科衛生に関する法律と業務		15	実習日誌の書き方・提出について	
6	歯科診療の流れ		16	臨地実習心得	
7	実習室の使い方 (髪型・実習着・ファントム・等)		17	企業の歯科衛生士の仕事内容	
8	歯科診療における情報収集		18	自分になりたい歯科衛生士に	
9	歯科医療における倫理		19	臨地実習報告会	
10	予防の概念と保健指導の理論		20	臨地実習報告会	
講義方法					
教科書・スライド・プリント					
講義で使用する機器・教材					
その都度連絡します。掲示板を注意して下さい。					
履修上の注意事項					
配布したプリントを使い復習しましょう。					
成績評価方法					
出席状況・受講態度・提出物・定期試験で総合的に評価する。					
教科書					
歯科衛生学総論・歯科臨床概論					
予習復習のアドバイス					
授業中配布したプリントを使いましょう。					

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	歯科衛生科	学 年	1 学年		
科目名	歯科予防処置Ⅰ-1	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	非常勤講師（全講義）	単位時間数	30	単位数	2
	市川明子（一部）		7.5		
講義目標	一般目標				
	歯科予防処置についての専門的な知識と態度を習得する。				
	到達目標				
歯科予防処置について（う蝕と歯周病。フッ化物の応用、シーラントなど）概要を理解する。					
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	歯科予防処置法とは		11	キュレットスケーラー シャープニング（市川明子）	
2	口腔の基礎知識	1	12	スケーリング総復習（市川明子）	
3	口腔の基礎知識	2	13	超音波スケーラー エアスケーラー（市川明子）	
4	う蝕と歯周病の基礎知識	1	14	ミラーテクニック・術後の洗浄 歯面研磨・歯面清掃（市川明子）	
5	う蝕と歯周病の基礎知識	2	15	フッ化物の応用 1	
6	う蝕と歯周病の基礎知識	3	16	フッ化物の応用 2	
7	分析のためのデータ		17	シーラントについて	
8	分析のためのデータ		18	総復習	
9	分析のためのデータ		19	テスト	
10	スケーリング	1（市川明子）	20	テスト解説 ラバーダム復習	
講義方法					
教科書を中心に講義を進める。 過去の歯科衛生士国家試験の問題にもふれ国家試験対策を行う。					
講義で使用する機器・教材					
教科書、パワーポイント、プリント					
成績評価方法					
定期試験 出席状況					
教科書					
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論					
予習復習のアドバイス					
予習として事前に教科書の対応項目に目を通し、復習としてその日に配布したプリントを整理し教科書をよむことが望ましい。					

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	歯科衛生科	学 年	1年生		
科目名	歯科予防処置Ⅰ－Ⅱ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	演習回数	16／40
講師名	福永敏美・市川明子	単位時間数	24／60	単位数	2
講義目標	一般目標				
	口腔の健康維持、増進に関して継続的なケアを理解し、口腔疾患や予防方法についての目的、方法、手技を学ぶ。				
	到達目標				
	模型実習および相互実習を通して歯科予防処置法の手技を基礎から応用へと積み上げ実施できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	各種検査方法 う蝕活動試験 1	11	フッ化物について フッ素塗布法 3
2	各種検査方法 う蝕活動試験 2	12	フッ化物について フッ素洗口法
3	歯周検査（顎模型） 演習 基礎知識と器材の取り扱い 1	13	小窩裂溝填塞法 演習 顎模型実習 1
4	歯周検査（顎模型） 演習 基礎知識と器材の取り扱い 2	14	小窩裂溝填塞法 演習 顎模型実習 2
5	歯周検査（顎模型） 演習	15	小窩裂溝填塞法 演習 顎模型実習 3
6	歯周検査（顎模型） 演習	16	小窩裂溝填塞法 演習 顎模型実習 4
7	歯周検査（顎模型） 演習	17	スクレーリングの基礎知識 1 演習
8	歯周検査（顎模型） 演習	18	スクレーリングの基礎知識 2 演習
9	フッ化物について フッ素塗布法 1	19	シックススケーラー 1－① 顎模型実習
10	フッ化物について フッ素塗布法 2	20	シックススケーラー 1－② 顎模型実習

講義方法

実習内容の説明およびデモンストレーション
相互実習 顎模型実習

講義で使用する機器・教材

教科書、模型、マネキン、プリント、パワーポイント、実習帳

履修上の注意事項

実習中、偶発事故に遭遇したらすみやかに、担当講師に連絡すること。

成績評価方法

授業への出席、レポートおよび実習に関する試験
実技試験は教員2名で各50点合計100点で採点

教科書

最新歯科衛生士教本歯科予防処置論・歯科保健指導論

予習復習のアドバイス

予習として事前に教科書に目を通し目的をもって実習に臨み、その日の実習内容を復習する事により理解を深めて行くことが望ましい。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	歯科衛生科	学 年	1学年		
科目名	歯科予防処置Ⅰ－Ⅱ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	24／40
講師名	加藤美智子・（非常勤講師）	単位時間数	36／60	単位数	2
講義目標	一般目標				
	口腔の健康維持、増進に関して継続的なケアを理解し、口腔疾患や予防方法についての目的、方法、手技を学ぶ。				
	到達目標				
	模型実習および相互実習を通して歯科予防処置法の手技を基礎から応用へと積み上げ実施できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
17	スケーリングの基礎知識 1 演習	29	シックルスケーラー 6－① 顎模型実習
18	スケーリングの基礎知識 2 演習	30	シックルスケーラー 6－② 顎模型実習
19	シックルスケーラー 1－① 顎模型実習	31	歯面清掃 1 顎模型実習
20	シックルスケーラー 1－② 顎模型実習	32	歯面清掃 2 顎模型実習
21	シックルスケーラー 2－① 顎模型実習	33	超音波スケーラー 1 顎模型実習
22	シックルスケーラー 2－② 顎模型実習	34	超音波スケーラー 2 顎模型実習
23	シックルスケーラー 3－① 顎模型実習	35	超音波スケーラー 3 顎模型実習
24	シックルスケーラー 3－② 顎模型実習	36	超音波スケーラー 4 顎模型実習
25	シックルスケーラー 4－① 顎模型実習	37	シックルスケーラー相互実習
26	シックルスケーラー 4－② 顎模型実習	38	シックルスケーラー相互実習
27	シックルスケーラー 5－① 顎模型実習	39	実技試験
28	シックルスケーラー 5－② 顎模型実習	40	実技試験

講義方法

実習内容の説明およびデモンストレーション
相互実習 顎模型実習

講義で使用する機器・教材

教科書、模型、マネキン、プリント、パワーポイント、実習帳

履修上の注意事項

実習中、偶発事故に遭遇したらすみやかに、担当講師に連絡すること。

成績評価方法

授業への出席、レポートおよび実習に関する試験
実技試験は教員2名で各50点合計100点で採点

教科書

最新歯科衛生士教本歯科予防処置論・歯科保健指導論

予習復習のアドバイス

予習として事前に教科書に目を通し目的をもって実習に臨み、その日の実習内容を復習する事により理解を深めて行くことが望ましい。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	歯科衛生科	学 年	2年		
科目名	歯科予防処置Ⅱ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20/80
講師名	市川明子・（非常勤講師）	総時間数	30/120	単位数	4
講義目標	一般目標				
	歯科衛生士の業務内容を理解すること。歯科衛生士法のもとにおいて歯科予防処置を行う。				
	到達目標				
	歯科予防処置の基礎知識を理解し、手技や技術を顎模型実習や相互実習で習得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	超音波スケーラー顎模型（下顎） 歯面清掃・研磨	11	超音波スケーラー相互実習 （上顎）歯垢染色・歯面清掃・研磨
2	超音波スケーラー顎模型（下顎） 歯面清掃・研磨	12	超音波スケーラー相互実習 （上顎）歯垢染色・歯面清掃・研磨
3	超音波スケーラー顎模型（上顎） 歯面清掃・研磨	13	超音波スケーラー相互実習 歯垢染色・歯面清掃・研磨
4	超音波スケーラー顎模型（上顎） 歯面清掃・研磨	14	超音波スケーラー相互実習 歯垢染色・歯面清掃・研磨
5	超音波スケーラー相互実習 （下顎）歯垢染色・歯面清掃・研磨	15	1、2年生相互実習 問診、口腔内診査、プロービング
6	超音波スケーラー相互実習 （下顎）歯垢染色・歯面清掃・研磨	16	1、2年生相互実習 問診、口腔内診査、プロービング
7	超音波スケーラー相互実習 （下顎）歯垢染色・歯面清掃・研磨	17	1、2年生相互実習 問診、口腔内診査、プロービング
8	超音波スケーラー相互実習 （下顎）歯垢染色・歯面清掃・研磨	18	1、2年生相互実習 問診、口腔内診査、プロービング
9	超音波スケーラー相互実習 （上顎）歯垢染色・歯面清掃・研磨	19	1、2年生相互実習 問診、口腔内診査、プロービング
10	超音波スケーラー相互実習 （上顎）歯垢染色・歯面清掃・研磨	20	1、2年生相互実習 問診、口腔内診査、プロービング

講義方法

実習内容の説明およびデモンストレーション・顎模型実習・相互実習

講義で使用する機器・教材

教科書・顎模型・マネキン・プリント

履修上の注意事項

実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目1つにつきー1点となります。
実習中、偶発事故に遭遇したら速やかに担当講師に連絡すること。

成績評価方法

出席、授業態度、小テスト、定期試験、実技試験を総合的に判断します。

教科書

最新歯科衛生士教本歯科予防処置論・歯科保健指導論

予習復習のアドバイス

教科書・プリントを使用して復習すること。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	歯科衛生科	学 年	2年		
科目名	歯科予防処置Ⅱ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20/80
講師名	市川明子・（非常勤講師）	総時間数	30/120	単位数	4
講義目標	一般目標				
	歯科衛生士の業務内容を理解すること。歯科衛生士法のもとにおいて歯科予防処置を行う。				
	到達目標				
	歯科予防処置の基礎知識を理解し、手技や技術を顎模型実習や相互実習で習得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	歯垢染色・PCR・Br指導・プロービング 相互実習4点法	11	ラバーダム 相互実習
2	歯垢染色・PCR・Br指導・プロービング 相互実習4点法	12	ラバーダム 相互実習
3	歯垢染色・PCR・Br指導・プロービング 相互実習6点法	13	ラバーダム・シーラント相互実習 下顎
4	歯垢染色・PCR・Br指導・プロービング 相互実習6点法	14	ラバーダム・シーラント相互実習 下顎
5	歯垢染色・PCR・Br指導・プロービング 相互実習6点法	15	ラバーダム・シーラント相互実習 上顎
6	歯垢染色・PCR・Br指導・プロービング 相互実習6点法	16	ラバーダム・シーラント相互実習 上顎
7	ラバーダム・マネキン実習①	17	PMT C ① 相互実習
8	ラバーダム・マネキン実習①	18	PMT C ① 相互実習
9	ラバーダム・マネキン実習②	19	PMT C ② 相互実習
10	エアスケーラー実習	20	PMT C ② 相互実習

講義方法

実習内容の説明およびデモンストレーション・顎模型実習・相互実習

講義で使用する機器・教材

教科書・顎模型・マネキン・プリント

履修上の注意事項

実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目1つにつき-1点となります。

実習中、偶発事故に遭遇したら速やかに担当講師に連絡すること

成績評価方法

出席、授業態度、小テスト、定期試験、実技試験を総合的に判断します。

教科書

最新歯科衛生士教本歯科予防処置論・歯科保健指導論

予習復習のアドバイス

教科書・プリントを使用して復習すること

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	歯科衛生科	学 年	1学年		
科目名	歯科保健指導Ⅰ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	30
講師名	市川明子	単位時間数	45	単位数	3
講義目標	一般目標				
	健康と予防の概念を理解し、歯と口腔の健康を維持し増進するために基本となる理論的思考法を学び、知識を習得する。				
	到達目標				
	歯科保健指導の定義と考え方、法律を理解し説明できる。人のライフステージとその区分に応じた全身状態と口腔の健康について理解し説明できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	定義と考え方 法的な位置づけ	16	妊産婦期の特徴
2	健康の概念 予防の概念	17	妊産婦期の歯科保健指導
3	口腔の基礎知識	18	新生児期・乳児期の特徴
4	う蝕と歯周病の基礎知識	19	新生児期・乳児期の歯科保健指導
5	行動変容とそのステップ	20	幼児期の特徴
6	食生活指導の基礎	21	幼児期の歯科保健指導
7	情報収集・情報処理 主訴・現病歴・既往歴・医療面接	22	学童期の特徴
8	情報収集・情報処理 歯式・基本検査項目等	23	学童期の歯科保健指導
9	口腔清掃方法 1	24	青年期の特徴
10	口腔清掃方法 2	25	青年期の歯科保健指導
11	口腔清掃方法 3	26	成人期の特徴
12	プラーク付着指数 1 染め出し剤	27	成人期の歯科保健指導
13	プラーク付着指数 2	28	老年期の特徴
14	プラーク付着指数 3	29	老年期の歯科保健指導
15	歯科保健指導論前期まとめ	30	歯科保健指導論 後期まとめ

講義方法

プリント・スライド・歯科衛生士教本

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。掲示板を見ましょう。

成績評価方法

出席状況、授業態度、提出物、定期試験で総合的に判断します。

前期試験は第1回から第15回、後期試験は第16回から第30回までを範囲とする。

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論

予習復習のアドバイス

配布したプリントを使用して復習をしましょう。

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	歯科衛生科	学 年	1学年		
科目名	歯科保健指導 II	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	市川明子	単位時間数	30	単位数	1
講義目標	一般目標				
	歯科保健指導の基礎となる知識・技術を習得し理論や知識を理解する。				
	到達目標				
	歯科保健指導における口腔清掃指導法・情報収集・分析・立案について説明・実施できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	口腔清掃指導法について 講義	11	口腔観察 演習 2 PCR・指導内容考察
2	歯科保健指導 演習 口腔清掃用具 1	12	口腔観察 演習 3 PCR・指導内容考察
3	歯科保健指導 演習 口腔清掃用具 2	13	口腔観察 演習 4 PCR 指導内容立案・TBI・デンタルフロス
4	歯科保健指導 演習 口腔清掃用具 3	14	口腔観察 演習 5 PCR 指導内容立案・TBI・デンタルフロス
5	歯科保健指導 演習 口腔清掃用具 4	15	口腔観察 演習 6 PCR 指導内容立案・TBI・デンタルフロス
6	歯科保健指導 演習 口腔清掃用具 5	16	口腔観察 演習 7 PCR 指導内容立案・TBI・デンタルフロス
7	医療面接演習 演習 1	17	口腔観察 演習 8 OHI・OHI-S 指導内容立案・TBI・デンタルフロス
8	医療面接演習 演習 2	18	口腔観察 演習 9 OHI・OHI-S 指導内容立案・TBI・デンタルフロス
9	口腔清掃方法まとめ	19	自己の口腔管理・口腔観察と記録 情報のアセスメント・
10	口腔観察 演習 1	20	解決策プランニング 自己の口腔管理計画発表

講義方法

スライド・プリント・教科書

講義で使用する機器・教材

口頭または掲示板でお知らせします。

履修上の注意事項

- 1 教科書等忘れ物のないように
- 2 演習時、身だしなみを整えてから入室しましょう。
(入室時服装・爪のチェックがあります)
- 3 忘れ物1つにつき - 1点

成績評価方法

筆記試験、実習テスト、

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	歯科衛生科	学 年	2年		
科目名	歯科保健指導Ⅱ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	市川明子	単位時間数	30	単位数	1
講義目標	一般目標				
	健康と予防の概念を理解し、歯と口腔の健康を維持し増進するために基本となる思考法を学び、知識を習得する。				
	到達目標				
	ライフステージ別・個人・集団など各対象者別に口腔衛生指導ができる。地域の歯科保健活動における集団指導の方法を習得する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	ライフステージ別歯科保健指導 妊娠期・新生児・乳児期	11	臨地実習への準備 媒体作製
2	ライフステージ別歯科保健指導 幼児期	12	臨地実習への準備 媒体作製
3	保健所での歯科保健指導 保健生態学	13	臨地実習への準備 媒体作製
4	ライフステージ別歯科保健指導 学齢期	14	臨地実習への準備 媒体作製
5	学校保健 保健生態学	15	臨地実習への準備 媒体作製
6	ライフステージ別歯科保健指導 青年期	16	臨地実習への準備 媒体作製
7	臨地実習への準備 媒体作製	17	幼稚園での歯科保健指導 リハーサル・修正
8	1・2年生相互実習	18	幼稚園での歯科保健指導 リハーサル・修正
9	1・2年生相互実習	19	幼稚園での歯科保健指導 リハーサル・修正
10	臨地実習への準備 媒体作製	20	幼稚園での歯科保健指導 最終確認

講義方法

スライド・プリント・教科書

講義で使用する機器・教材

媒体作製の準備物はその都度連絡します。

成績評価方法

出席・試験・受講態度から総合的に判断します。

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論・保健生態学

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	歯科衛生科	学 年	2 学年		
科目名	栄養学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	10
講師名	市川明子	総時間数	15	単位数	1
講義目標	一般目標				
	人の一生におけるライフステージ別の特性を把握し適切な栄養管理を理解する。				
	到達目標				
	歯科衛生士として、健康作りにおける食生活改善の指導ができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	栄養学とは	6	食生活と生活習慣病
2	食生活の把握	7	障がい者・要介護者の食事支援 ②
3	ライフステージと食育 ①	8	障がい者・要介護者の食事支援 ②
4	ライフステージと食育 ②	9	障がい者・要介護者の食事支援 ③
5	ライフステージと食育 ③	10	栄養学まとめ

講義方法

教科書・プリント・スライド

講義で使用する機器・教材

掲示板で連絡します。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験で総合的に評価します。

教科書

人体の構造と機能2 栄養と代謝

講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	歯科衛生科	学 年	2年		
科目名	歯科診療補助Ⅱ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	40/80
講師名	加藤美智子	単位時間数	60/120	単位数	4
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助行為の基本から応用へと臨床現場で十分対応できるように技術を習得すること。				
	到達目標				
	歯科材料の選択や正しい取り扱いができる。共同作業の基本から応用へと対応できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	アルジネート印象材 ①	11	セメント ④
2	アルジネート印象材 ①	12	セメント ④
3	アルジネート印象材 ③	13	総復習
4	アルジネート印象 ③	14	総復習
5	アルジネート印象 ④	15	症例別器材の準備
6	アルジネート印象 ④	16	症例別器材の準備
7	合成ゴム質印象材	17	症例別器材の準備
8	合成ゴム質印象	18	症例別器材の準備
9	セメント ②	19	症例別器材の準備
10	セメント ②	20	症例別器材の準備

回数	講義内容	回数	講義内容
21	アルジネート印象 ②	31	症例別器材の準備
22	アルジネート印象 ②	32	症例別器材の準備
23	アルジネート印象 ⑤	33	症例別器材の準備
24	アルジネート印象 ⑤	34	症例別器材の準備
25	セメント ①	35	症例別器材の準備
26	セメント ①	36	症例別器材の準備
27	セメント ③	37	症例別器材の準備
28	セメント ③	38	症例別器材の準備
29	合成ゴム質印象	39	まとめ
30	合成ゴム質印象	40	まとめ

講義方法

教科書・スライド・プリント

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。

履修上の注意事項

実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目1つにつきー1点となります。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験で総合的に評価する。

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助

予習復習のアドバイス

教科書・プリントを使用して復習すること。